

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 2 区分
【発行日】令和 6 年 9 月 18 日(2024.9.18)

【公開番号】特開 2023-45319(P2023-45319A)
【公開日】令和 5 年 4 月 3 日(2023.4.3)
【年通号数】公開公報(特許)2023-061
【出願番号】特願 2021-153662(P2021-153662)
【国際特許分類】

G 0 2 B 27/02(2006.01)

10

H 0 4 N 5/64(2006.01)

【F I】

G 0 2 B 27/02 Z

H 0 4 N 5/64 5 1 1 A

【手続補正書】
【提出日】令和 6 年 9 月 9 日(2024.9.9)
【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
【請求項 1】

第 1 の直線偏光板を有し、画像表示素子からの光を観察者の眼に導く接眼光学系と、

前記画像表示素子から前記観察者の眼に至る光路外に配置される第 2 の直線偏光板とを有し、

前記第 1 の直線偏光板は、前記光路の最も観察者側に配置されており、

前記第 1 の直線偏光板の透過軸方向と前記第 2 の直線偏光板の透過軸方向は、互いに異なることを特徴とする光学装置。

30

【請求項 2】

前記第 1 の直線偏光板の前記透過軸方向と前記第 2 の直線偏光板の前記透過軸方向とのなす角度は、70 度以上 110 度以下であることを特徴とする請求項 1 に記載の光学装置。

【請求項 3】

前記画像表示素子とは異なる光源からの光が光学系に入射することを抑制するための遮光部を更に有することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の光学装置。

【請求項 4】

前記第 2 の直線偏光板は、前記遮光部により保持されることを特徴とする請求項 3 に記載の光学装置。

40

【請求項 5】

前記接眼光学系は、前記画像表示素子の側から前記第 1 の直線偏光板の側へ順に配置された、第 3 の直線偏光板、第 1 の位相板、第 1 のレンズ、半透過反射素子、第 2 のレンズ、および第 2 の位相板を有することを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか一項に記載の光学装置。

【請求項 6】

前記接眼光学系は、前記画像表示素子と前記第 1 の直線偏光板の間に配置される偏光ビームスプリッタを備えることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか一項に記載の光学装置。

【請求項 7】

50

前記接眼光学系のアイレリーフが10mm以上であることを特徴とする請求項1乃至6のいずれか一項に記載の光学装置。

【請求項8】

請求項1乃至7のいずれか一項に記載の光学装置と、前記画像表示素子とを有することを特徴とする画像表示装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

10

【0007】

本発明の一側面としての光学装置は、第1の直線偏光板を有し、画像表示素子からの光を観察者の眼に導く接眼光学系と、前記画像表示素子から前記観察者の眼に至る光路外に配置される第2の直線偏光板とを有し、前記第1の直線偏光板は、前記光路の最も観察者側に配置されており、前記第1の直線偏光板の透過軸方向と前記第2の直線偏光板の透過軸方向は、互いに異なる。

20

30

40

50